

地図にかいてみよう

元創価大学教育学部 教授 吉田和義

町のイラストから地図をつくろう

子どもの地図の発達と地図学習

成長に伴って子どもの描く地図は、発達していきます。一般に地図は線的なルートマップの段階から面的なサーベイマップの段階に発達するといわれます。社会科で地図学習が始まる小学校3年は、ルートマップの段階の子どもがほとんどです。この実態を踏まえて、サーベイマップへの地図の発達を促す地図学習が重要です。


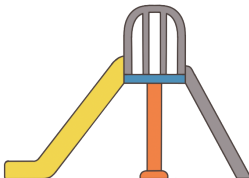
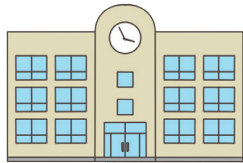

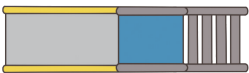
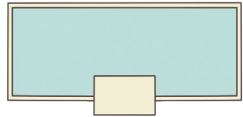
絵地図から平面地図へ

小学校1・2年の学習では絵地図が活躍します。生活科の教科書にも絵地図が登場します。低学年の子どもに自由に地図を描いてもらおうと、建物を絵のように表現する事例が多く見られます。絵を用いた地図は、子どもにとって親しみやすいといえます。3年での社会科の開始に伴って、子どもの地図が絵地図から平面地図に発達するように支援する学習を計画することが求められます。

平面地図を描くポイント

絵地図と比較して平面地図には、いくつかの特色があります。**第一は、視点の変化です。**絵地図では、水平の視点または斜めから見た視点で、建物・樹木などの地物を表現します（ネコの目）。平面地図では、2次元の面的な広がりのある空間を表現できるように、上空からの垂直の視点で表現します（トリの目）。子どもが垂直からの視点を獲得できるようにすることが大切です（**表1**）。**第二に、道路、鉄道や河川など基準となる地物をよりどころとして学校や自分の家の位置を定位します。**鉄道や主な道路など座標軸となる地物を基に位置をとらえるようにします。**第三に、地図記号を活用してランドマークとなる場所を配置します。**方位の記号も描き入れるとよいでしょう。子どもがこのような平面地図の特色をとらえ、地図を活用することができるようになると地図の読図や作図の技能が身に付きます。

表1 地図の視点（どのように見えるか比べます。）

	ペットボトル	すべり台	小学校校舎
ネコの目 横から見る			
トリの目 上から見る			

以上のことに留意してワークシートをご活用ください。

地図にかいてみよう

名前 _____ 年 組 番 _____

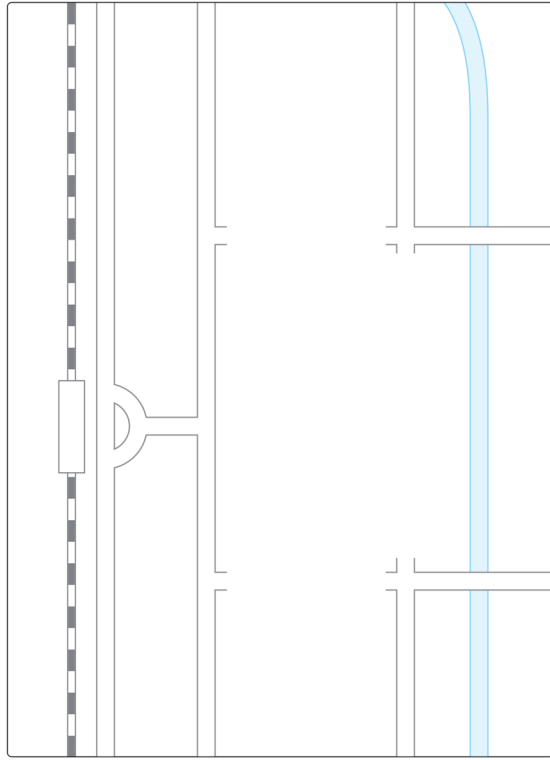
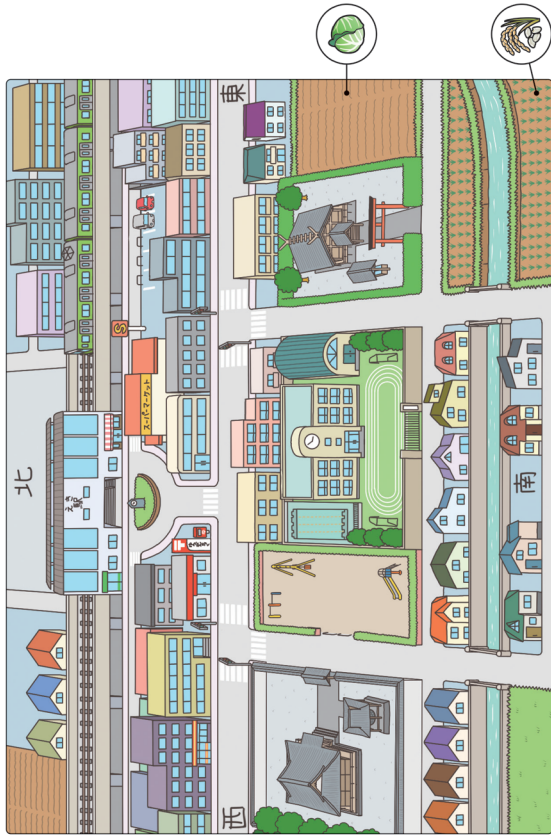
町のイラストから地図をつくろう

- 右の絵地図を見て、1～3をやってみよう。
- 1 絵地図の小学校から、公園とお寺の間を通り、郵便局の前を通って、駅まで行く道のりを指でたどります。
- 2 絵地図の指でたどった小学校から駅までの道のりに線をひきます。
- 3 小学校から駅までの道ぞいにあるものを3つかきます。地図記号があるものは記号もかきます。

れい ()	⇒	地図記号 ()	文
① ()	⇒	地図記号 ()	
② ()	⇒	地図記号 ()	
③ ()	⇒	地図記号 ()	

- 絵地図をもとに、つぎのようなじゆんで地図をかきましょう。
- 1 鉄道、おもな道路や川をかきます。
- 2 小学校、郵便局や駅などのめじるしとなるものをかきます。地図記号も使います。
- 3 そのほかの道路、たてもの、畑や田んぼなどをかきます。
- 4 方位 (東西南北) を表す方位記号をかきます。

(方位記号)



注意!

ワークシート「町のイラストから地図をつくろう」のA3判PDFデータを、[帝国書院ウェブサイト](#)に掲載しています。ぜひダウンロードしてご活用ください。



Webサイトはこちら